



株主の皆さまへ

第44期中間報告書

2016.3.1 ~ 2016.8.31



イオンディライト株式会社

証券コード：9787

増収増益、過去最高益を更新

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第44期第2四半期連結累計期間（2016年3月1日～2016年8月31日）における業績と事業への取り組みにつきまして、ご説明いたします。

■経営環境

国内の労働人口動態を反映し人手不足が持続的、構造的な様相を見せる一方で、競合企業間では価格競争が昨年に増して活発化した感がありました。また顧客の動向においても、グローバルに事業を展開している企業を中心に、経営資源の戦略分野集中の一環で間接部門である総務管財機能（施設およびその周辺環境等のファシリティ管理・運営機能）を、一括して外部委託する動きが見られました。更に、海外、特に中国では建物の新規建設だけでなく、建設後の効率的な活用を目的とした管理・運営についても重視されるようになってきました。このような環境の中、当社は日本、中国、アセアン各国にて総合ファシリティマネジメントサービス（総合FMS）事業の拡大に取り組むと共に中長期的な競争力確保を目的に既存事業モデルの変革を進めました。



代表取締役社長兼
社長執行役員

中山一平

■当期間の業績

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,514億円（対前年同期比106.0%）、営業利益85億5百万円（同104.7%）、経常利益85億6百万円（同104.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益53億42百万円（同114.1%）となりました。

■当社の主な取り組み

・国内での事業拡大

国内では、医療関連施設、オフィスビル、ホテル、工場、複合型施設等へサービスの提供を開始しました。また、国内外で複数の施設を保有される企業に対して、統合的なファシリティマネジメント（FM）業務受託に向けた提案活動を進めました。

・中国・アセアンでの事業拡大

中国では政府系施設や地域インフラ施設、介護施設等の様々な用途の施設に対してサービスの提供を拡大しました。また、江蘇省蘇州市において市政府主導により進められている大規模都市開発プロジェクト「高铁新城プロジェクト」参画に向けた取り組みを進めました。今後、同エリア内にて建設が続く各種施設へのサービス提供拡大を図ります。

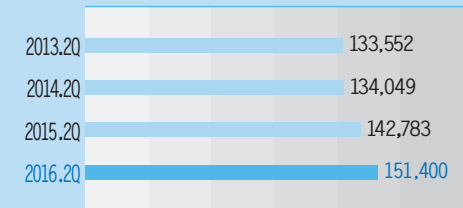
マレーシアでは商業施設での清掃や省エネサービスに加え、常駐による設備管理の受託を拡大しました。ベトナムでは新規開業の大型商業施設をはじめ、様々な用途の施設へサービスの提供を拡大しました。

なお、今後もマーケットの拡大が見込まれる中国・アセアンでの成長を目指し、同地域へ積極的に経営資源を振り向けていきます。

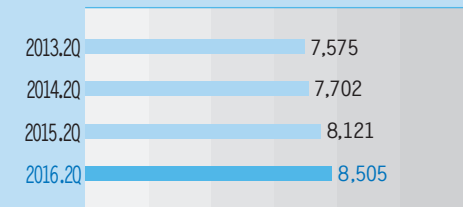
【連結財務指標】

売上高

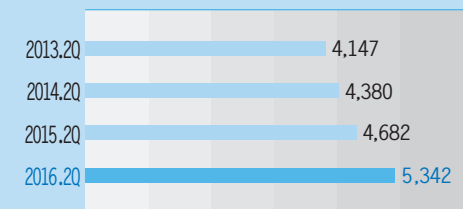
（単位：百万円）



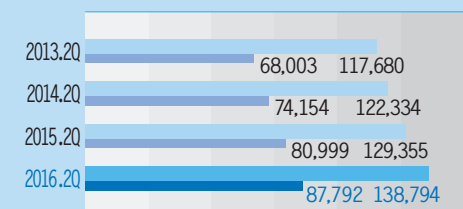
営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



総資産・純資産



Consolidated Financial Sheets

連結財務諸表（要約）

(百万円)		
連結貸借対照表	当第2四半期連結会計期間 2016年8月31日	前連結会計年度 2016年2月29日
(資産の部)		
Ⅰ.流動資産	112,589	105,674
Ⅱ.固定資産	26,204	25,674
有形固定資産	7,771	7,086
無形固定資産	9,948	10,397
投資その他の資産	8,485	8,190
資産合計	138,794	131,349
(負債の部)		
Ⅰ.流動負債	48,189	44,821
Ⅱ.固定負債	2,811	2,527
負債合計	51,001	47,348
(純資産の部)		
Ⅰ.株主資本		
資本金	3,238	3,238
資本剰余金	18,946	18,862
利益剰余金	63,369	59,393
自己株式	△ 436	△ 441
株主資本合計	85,118	81,052
Ⅱ.その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	548	648
為替換算調整勘定	118	372
退職給付に係る調整累計額	△ 441	△ 495
その他の包括利益累計額合計	225	525
Ⅲ.新株予約権	263	221
Ⅳ.非支配株主持分	2,186	2,200
純資産合計	87,792	84,000
負債純資産合計	138,794	131,349

(百万円)		
連結損益計算書	当第2四半期連結累計期間 2016年3月1日～ 2016年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2015年3月1日～ 2015年8月31日
Ⅰ.売上高	151,400	142,783
Ⅱ.売上原価	131,855	124,185
売上総利益	19,544	18,598
Ⅲ.販売費及び一般管理費	11,039	10,476
営業利益	8,505	8,121
Ⅳ.営業外収益	170	139
Ⅴ.営業外費用	169	121
経常利益	8,506	8,139
Ⅵ.特別利益	469	160
Ⅶ.特別損失	202	9
税金等調整前四半期純利益	8,773	8,290
法人税、住民税及び事業税	2,952	3,039
法人税等調整額	264	389
法人税等合計	3,217	3,429
四半期純利益	5,556	4,860
非支配株主に帰属する四半期純利益	214	178
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,342	4,682

(百万円)		
連結キャッシュ・フロー計算書	当第2四半期連結累計期間 2016年3月1日～ 2016年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2015年3月1日～ 2015年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,753	1,029
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,159	△ 2,218
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,070	△ 1,380
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 187	△ 72
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	5,655	△ 2,642
現金及び現金同等物の期首残高	19,473	15,476
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,128	12,833

Column

FM-1グランプリ開催 総合FMS、No.1センターを決定!

当社では、お客さま満足度の更なる向上を図るため、それぞれの拠点となるセンターから取り組みを募り、最も優れた事例を決定する「FM-1グランプリ2016」を2016年6月より開催しています。

施設の魅力向上につながる提案を

当社は、創業から40年超に亘り、施設及びその周辺環境に向けて「安全・安心・快適」を提供しています。お客さま満足度の向上や施設の魅力向上を図るには、今以上に踏み込んだ提案をお客さまに対して行うことが重要であり、各センターの従業員一人ひとりが自らリーダーシップを持って働くことが不可欠であると考えています。そこで今回、お客さまへの提案力を高め、提供する総合FMSの品質をより確かなものにすることを目指し、本グランプリを開催しました。全国にまたがる当社の各拠点から、商業施設の集客につながる提案や施設利用者のためになる提案、職場環境の改善に向けた取り組みなどの好事例を募り、No.1のセンターを表彰します。



FM-1グランプリ2016 特設サイト

社内SNS活用による活性化

本グランプリは、「提案力」「働きやすさ追求」「ベストプラクティス」の3つのカテゴリーから構成され、SNSを利用して各センターから優れた取り組みのエントリーを募ります。エントリー内容は即座にSNSページ上に公開され、各センターの取り組みを閲覧できます。他の事例を参考にして更に新たな取り組みもエントリーすることができ、センター間の競争意識を喚起することが活性化にも繋がります。グランプリは閲覧者からの投票数等により選出し、2017年1月末に表彰式を行う予定です。

更なる品質向上を目指して

グランプリ開催から約5ヶ月が経過し、各センターからのエントリーは800件以上にも上りました。日々、施設利用者や店舗集客に利する提案をはじめ、働きやすさ向上のための工夫や好事例など、新たな提案や改善活動が全国に展開されています。本グランプリを通じて、魅力ある提案や改善を図り、高品質な総合FMSの提供実現に向けて努めていきます。

Segment Information

セグメント概況

イオンディライトの 総合FMS

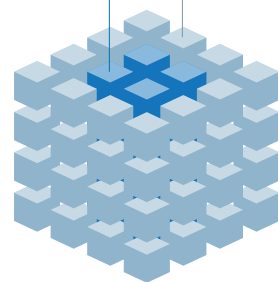


企業の経営基盤であるフ
企業を活性化し
イオンディライト
(ファシリティマネ

ァシリティを最大限に活用、
強い基盤をつくる
の「総合FMS
ジメントサービス」。

中核事業

ファシリティ業務



ファシリティ活用前



ファシリティを最大限に活用

総合
FMS

建設施工事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

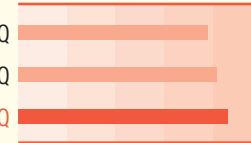
265億88百万円

(対前年同期比101.3%)

- 設計・デザイン分野の体制強化により商業施設を中心に改修工事に伴う原状回復、仮囲い、設計、内装監理までのサービス提供体制を構築。
- 商業施設の店舗改装や維持・修繕を中心に各種工事受託を堅調に拡大。

資材関連事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

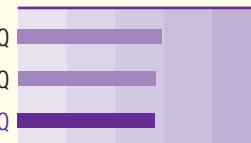
258億59百万円

(対前年同期比105.4%)

- 新規の顧客開拓、既存取引先の新たな需要の取り込みにより順調に取引を拡大。
- 在庫コントロールによる保管費・物流コストの削減等、収益性改善に向けて取り組む。

自動販売機事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

169億11百万円

(対前年同期比99.7%)

- 営業活動強化により、各飲料メーカー人気商品を揃えた混合機を中心に設置拡大に取り組む。
- デジタルサイネージ自販機の動画広告枠提供拡大やコンテンツの充実化、AR(拡張現実)機能付自販機で娯楽性のある「体験」の提供等、自販機の新たな付加価値の創造。

サポート事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

94億37百万円

(対前年同期比108.8%)

- 旅行代理サービスを提供するイオンコンパス(株)で、B T M(国内出張マネジメント・海外赴任サポート)などの法人事業やイベント事業が好調に推移。
- サポート事業セグメントの連結子会社の成長が売上高・収益性向上に寄与。



設備管理事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

254億51百万円

(対前年同期比104.3%)

- 空調熱源・冷凍冷蔵設備の不具合改修業務やフロン管理代行業務の受託を拡大。機器の点検データ分析をもとに改修提案、フロンガス漏えいの予防保全に取り組む。
- 日中協働によりIoT技術、センサー、クラウドを活用した次世代型施設管理モデル構築を推進。

警備事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

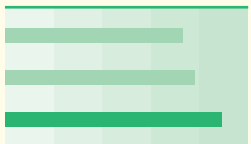
204億8百万円

(対前年同期比109.7%)

- 新規施設の常駐警備に加えて、開業に伴う臨時警備の受託を拡大。
- 顧客拡大に向けた営業強化と共に、警備の省人化の為のシステム開発に取り組む。

清掃事業

2014.2Q
2015.2Q
2016.2Q



売上高

267億43百万円

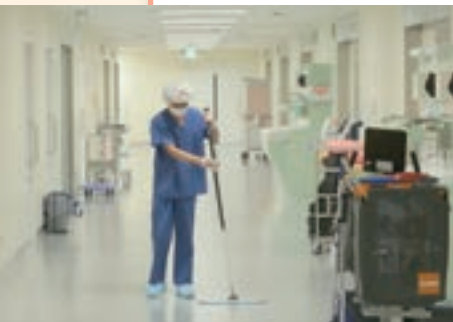
(対前年同期比114.4%)

- 病院・介護施設市場に向け衛生清掃の積極的提案活動を実施。品質・生産性向上を目的に施設毎の新たな品質基準づくりを進める。
- 大型商業施設に対し業務用清掃ロボットの今期中テスト導入を目指し、実用化に向けた研究開発を進める。



「衛生清掃」による感染対策ビジネス

当社は、2015年度より「衛生清掃」を病院等医療・介護施設向けの清掃メニューとして確立。北海道や関西の病院チェーンを始めとする医療機関を中心に受託を拡大してきました。今回は、「衛生清掃」の概要と今後の展望を紹介します。



●「衛生清掃」とは

「衛生清掃」とは、「汚れを落とす、美観を保つ、といった従来の清掃に加え、感染制御も行う清掃のプログラム」です。「衛生清掃」には、感染対策に特化した高性能資機材の使用、使用後の資材の衛生管理、安定したサービス品質の維持、の3つの特長があります。

高性能資機材や衛生管理の一例としては、安全性・効率性に優れ除菌効果の高い洗浄剤の採用、細菌の除去率が高いウルトラマイクロファイバーをクロス・モップに使用、その管理には厚生省ガイドラインに基づき80℃熱水で10分間以上洗濯処理するなど、全てエビデンス（科学的根拠）に基づいた清掃工程を採用しています。

●教育とモニタリングを用いたサービス品質の維持向上

サービス品質の維持向上については最も重要な要素であると捉え、清掃従事者への教育（INPUT）と清掃品質（OUTPUT）のモニタリングの双方の管理を徹底することで品質維持を図っています。

従事者教育では、教育動画、eラーニング、ハンドブック、手順書等のマニュアルを用いた教育プログラムと現地のOJTにより、手洗い方法・資機材使用方法などの基礎知識・技術からホスピタリティなどの心構えに関する分野まで幅広く体得させることで、一定の品質レベルを担保する仕組みを構築しています。

清掃品質のモニタリングでは、病院と協同し、感染管理を行う医療従事者の目を通じた巡回（院内ラウンドチェック）を定期的実施、品質チェックとともにニーズの把握も行うことで、継続的なサービス改善に繋がっています。

●産学医協同の取り組み

「衛生清掃」を通じて大学や病院との連携を強化し、付加価値向上に繋げる取り組みも行っています。2016年1月には、山形県下の病院薬剤師会の共催、看護協会の後援によ



医療セミナーの様子

り、「エビデンスに基づいた感染対策の実践」と題した医療セミナーを開催。感染制御学に関する著名な先生方をお招きし、医療従事者の方々に対して情報発信を行いました。

2016年7月には、感染制御学の権威である東京保健医療大学大学院 感染制御学教授菅原えりさ先生をアドバイザーにお招きし、学術的観点に基づき「衛生清掃」教育を体系化し、清掃後の品質基準に関する協同研究に着手しました。この取り組みにより当社の品質基準だけでなく、これまで一定の品質基準がなかった病院清掃全般での規格構築を目指しています。

●国内外、多彩な施設へのサービス展開を目指す

今後は海外での「衛生清掃」サービス提供を目指していきます。中国・アセアンなど経済成長著しい地域では、衛生意識の高まりにより、「衛生清掃」のニーズも生まれています。

国内では、東京オリンピック開催や訪日客の誘致政策など、今後多くの人々が集まる場所での感染対策が大きな課題となると予測されます。このような環境の中、「衛生清掃」のノウハウを商業施設、ホテルなど病院以外の施設に対しても展開することで、安全・安心な環境づくりに貢献していきます。



イオンデライト株式会社
病院・介護営業推進部
部長



坂下 英樹

1. 「衛生清掃」で関わられた職務はなんですか。

病院へのサービス創りの中、「衛生清掃」に辿り着きました。病院管理の先進国ともいえる欧米に飛びノウハウを学び、日本独自に商品化させました。

2. 「衛生清掃」のサービス立ち上げをされた背景をお知らせください。

近年、新型インフルエンザやノロウィルスなどの報道により、私たちの感染に関する意識は高まり続けています。今や医療経営の制度設計でも感染対策が注目されるなど、病院では日常的に感染対策ニーズが高まっています。これらに対応することができるのが「衛生清掃」です。

3. 「衛生清掃」の今後の展望をお聞かせください。

これまで多くの顧客に評価頂いている「衛生清掃」の魅力は、エビデンスに基づいた感染対策という“付加価値の提供”と、独自の工程管理により本来相反する“経費削減”が実現できる独自のメカニズムです。そして最大の魅力こそ“安全・安心”です。「衛生清掃」により清潔な病院で生活する患者や医療従事者はもちろん、安全な資材・手順で提供する「衛生清掃」は私たちスタッフにとっても安全な仕組みです。

今後も感染対策は避けては通れません。当社は業界のリーディングカンパニーとして、安全・安心な「衛生清掃」をインフラとして広めていくことが社会的な使命と考えています。今後も更なるサービス価値向上に努めて参ります。引き続き株主の皆さまのご支援をよろしくお願い致します。



Topics

トピックス

イオンコンパス特別企画 「体験」と「学び」の旅 本格展開

旅行業を手掛けるイオンコンパス株式会社（以下イオンコンパス）では、イオングループが推進する「フードアルチザン（食の匠）」活動の一環として、地域の食文化を体験して学べるツアーを展開しています。

「フードアルチザン」とは、日本各地の食文化を全国に発信してブランド化を図るとともに、食文化の後継者の育成や地方創生を目指す取り組みです。ツアーは、地域の食・体験・学びの3つの魅力にこだわり、実際に産地や生産者を訪ねて食・伝統・歴史に触れることができる、イオングループならではの内容となっています。

イオンコンパスでは、2014年度の招待旅行を皮切りに、2015年度よりツアーを本格展開しています。2017年度

には会員の組織化を図り、2020年度には会員数1万人を目指して、フードアルチザン活動を推進していきます。



種子島での安納いも掘りツアーの様子

カジタク 働くママへサポート強化

家事代行サービスを展開する株式会社カジタク（以下カジタク）では、2016年7月より、これから新生児を迎える方を対象とした「ウェルカムベビークリーニング」サービスを開始しました。「ウェルカムベビークリーニング」は、お風呂・エアコンの掃除に加えて防カビ・抗菌コートの基本パックとするなど、より赤ちゃんに適した衛生環境の準備をお手伝いするサービスです。

更に妻・母・社会人として、活躍している女性を応援するため、「よくばりさんのままで行こう。」をキーメッセージにホームページ刷新、ブランドブック制作を行いました。日々、仕事・家事・育児に追われてしまう働くママに、家事サービスを利用することで、本当に大切にしたいコトや

今しかできないコトに気持ちや時間を注いでほしい、という思いを動画やコンテンツから発信しています。

カジタクでは今後もサービスを通じて働くママへのサポートを行うとともに、事業拡大を推進していきます。



「ウェルカムベビークリーニング」サービス

■よくばりさんのままで行こう。 <http://www.kajitaku.com/thought/>



Corporate Data

会社概要(2016年8月31日現在)

社 名 **イオンディライト株式会社**
AEON DELIGHT CO., LTD.

創 業 1972年11月16日
資 本 金 32億38百万円
事 業 内 容 総合FMS（ファシリティマネジメントサービス）事業
従 業 員 数 4,026名 グループ合計12,103名
本社所在地 **【大阪本社】**
〒542-0081 大阪市中央区南船場2-3-2 南船場ハートビル
【東京本社】
〒104-0044 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー8F

連結子会社
お よ び
持分法適用
関 連 会 社

イオンディライトアカデミー株式会社
イオンディライトセキュリティ株式会社
環境整備株式会社
株式会社ドゥサービス
エイ・ジー・サービス株式会社
株式会社カジタク
FMSソリューション株式会社
イオンコンパス株式会社
株式会社ジェネラル・サービシーズ
Aライフサポート株式会社
株式会社白青舎
永旺永楽（中国）物業服務有限公司
永旺永楽（江蘇）物業服務有限公司
武漢小竹物業管理有限公司
AEON DELIGHT (VIETNAM) CO.,LTD.
AEON DELIGHT (MALAYSIA) SDN.BHD.
その他
合計30社

取締役・監査役

代表取締役社長 社長執行役員	中 山 一 平
取 締 役 副社長執行役員	山 田 隆 一
取 締 役 専務執行役員	相 馬 勝
取 締 役 専務執行役員	家 志 太 二 郎
取 締 役 常務執行役員	山 里 信 夫
取 締 役 常務執行役員	古 川 幸 生
取 締 役 常務執行役員	定 岡 博 規
取締役相談役	古 谷 寛
取 締 役 執 行 役 員	四 方 基 之
取 締 役	澁 谷 祐 一
取 締 役	神 谷 和 秀
取 締 役	佐 藤 博 之 ※1.3
取 締 役	藤 田 正 明 ※1.3
常勤監査役	渡 部 和 仲 ※2
監 査 役	山 浦 耕 志
監 査 役	高 橋 司 ※2.3
監 査 役	津 末 浩 治

※1 社外取締役 ※2 社外監査役 ※3 東京証券取引所の定めに基づく独立役員

日経IR・投資フェア2016出展報告

当社は、2016年8月26日、27日の2日間、東京ビッグサイトにて開催された「日経IR・投資フェア2016」に出展しました。当社ブースでは、1日4回の説明会をはじめ、動画放映やパネル展示を行い、事業内容や業績・配当についてご説明しました。

また、会社説明会では、代表取締役社長兼社長執行役員の中山一平より、会社紹介、ファシリティマネジメントと当社の強み、成長戦略などについてお話をさせていただきました。



株主メモ

事業年度 3月1日から翌年2月末日
基準日 2月末日
(そのほか必要がある場合はあらかじめ公告いたします。)

定時株主総会 5月
単元株式数 100株
権利確定日 期末配当 毎年2月末日
中間配当 毎年8月31日

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

お取扱窓口 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や
買取請求等株主様の各種お手続きは、原則とし
て口座を開設されている証券会社等経由で行な
っていただくこととなりますので、ご利用の証
券会社等へご連絡をお願いいたします。
証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別
口座の場合）、下記のお取扱店にてお取次いた
します。
なお、支払明細の発行に関するお手続きにつ
きましては、みずほ信託銀行の下記連絡
先にお問合せください。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324
(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店 みずほ証券
本店、全国各支店および営業所
プラネットブース（みずほ銀行内の店舗）でも
お取扱いたします。
※カスタマープラザではお取扱できませんのでご了承ください。
みずほ信託銀行
本店および全国各支店
※トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。

未払配当金の
お支払 みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次のみとなります)

株式の状況 (2016年8月31日現在)

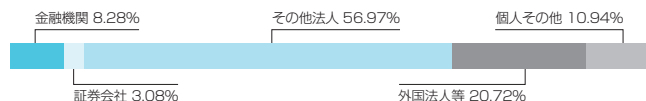
発行可能株式総数 86,400,000株
発行済株式総数 54,169,633株
株主数 7,338名

大株主の状況 (千株未満切り捨て) 所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
1	イオンリテール株式会社	16,558	30.57
2	イオン株式会社	6,103	11.27
3	リフォームスタジオ株式会社	3,994	7.37
4	オリジン東秀株式会社	1,854	3.42
5	日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	1,382	2.55
6	ゴールドマン・サックス・アンド・ カンパニー レギュラーアカウント	1,380	2.55
7	野村證券株式会社	969	1.79
8	イオンデライト取引先持株会	940	1.74
9	イオン琉球株式会社	855	1.58
10	ピーエヌビー パリバ セック サービス ルクセンブルグ ジャ スチック アドヴァン クローバル クライアント アセット	845	1.56

(注) 上記の所有株式数の他に、当社は自己株式1,615千株(発行済株式総数に対する
所有株式数の割合2.98%)を所有しております。

所有者別株式分布状況



ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

<http://www.aeondelight.co.jp/ir/>